

TICAD7 水災害へのレジリエンス強化ワークショップ (2019.8.30)

日時: 2019年8月30日(金)10:00-12:30

会場: JICA横浜 セミナールーム「かもめ」

主催: 国土交通省、緑の気候基金(GCF)

目的: 水関連災害(暴風雨、洪水や渇水等)対策に関する専門家、ドナー機関や行政担当者が参加し、主にアフリカをターゲットとして、水関連災害への適応策に関する経験や教訓を共有し、**今後の投資の強化のための方策**を探るとともに、**緑の気候基金(GCF)が策定中の水分野の投資戦略案について議論**。日本の技術・知見を活かした**援助案件の形成に向け、引き続き議論を継続**することに合意。

参加: 国土交通省、GCF、国連開発計画(UNDP)、世界銀行、JICA、土木研究所ICARM、アフリカ政府代表(マラウィ、モザンビーク)、民間企業等から約40名

※GCFは、開発途上国が気候変動への緩和と適応を実施するための取組を支援する国際基金。47の政府等が拠出を表明(総額約103億ドル)し、日本は15億ドルの拠出を決定。



議事次第

開会(国交省、GCF)

1. アフリカからの報告

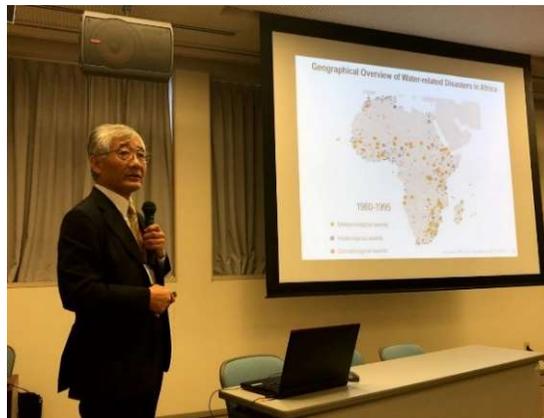
- ・GCF ・UNDP
- ・ジョーマ マラウィ共和国運輸・公共事業大臣

2. レジリエンス強化に向けて

- ・世界銀行 ・JICA
- ・小池ICARMセンター長 ・GCF

開会(国交省)

※ジョーマ マラウィ共和国運輸・公共事業大臣の参加は、8月28日に行われた阿達政務官とのバイ会談において、政務官から本会合を紹介されたことを受けたもの。



小池 ICARMセンター長:
数値モデルによる予測結果より、アフリカにおける水災害のハザード、特に洪水ハザードの増加が予測されていることを指摘。主にアフリカにおけるデータ・情報共有プロジェクトや先進的な科学技術の適用事例を紹介。



ジョーマ マラウィ共和国運輸・公共事業大臣:
今年3月に発生したサイクロン・イダイによる被害と支援の必要性につき発言。

